

南京

全1巻+別冊 (南京特務機関編『南京市政概況』)

監修◆金丸裕一 財団法人東洋文庫研究員・立命館大学教授 解説◆金丸裕一 / アスキュー・デイビッド 立命館アジア太平洋大学准教授

日中戦争を、軍事史の視点や抵抗史の視点ばかりではなく、占領地で生活していた中国人、日本人にも光をあて、新たな視点から日中関係を照射した貴重史料。



『南京』の復刻にあたって

金丸裕一

このたび復刻する市来義道編『南京』（南京日本商工会議所、一九四一年九月）は、本質的には単純な「南京案内書」と規定できるものの、その刊行の経緯や時期、さらに南京という「場」に刻まれた複雑な歴史性ゆえに、これまでは数奇な利用のされ方をされてきたのではないかと考えている。

第一にこの本は、いわゆる「支那事変」後に急増した在南京日本人に対して、さらに「南京」に関心を抱く日本帝国圏内の人々に対して、その概要を紹介することに目的を置いて編集されている。上海や大連などにはこうしたガイドブックは数多く存在するが、これらと同様の意図を持っていたのであろう。

しかも第二に、結成されてもない南京日本商工会議所は、この大部の著書の編纂に、三ヶ月という限られた時間を費やしたのみであり、ここに本書の限界がおのずと示唆されよう。日本側の在外公館や軍部・業界団体や国策会社・民間企業などが資料を提供したことは、容易に推測が可能である。

しかしながら第三に現在まで、日中戦争前後の南京、特に戦時中の動態に関するコンパクトな情報を提供する類書は少なく、しかも本書の場合、「事変前」の状況については主として中国側が調査した各種データの出典を明示、「事変後」についても南京特別市政府や対日協力政権側による報告を、やはり出典が遡れるように心がけて記載しており、「二次史料」としての批判的利用には、この上なく便利な指南書であるといえるだろう。

たいへんに由々しき現象として、近年における本書の利用のされ方が、主として「南京大虐殺」事件を取り巻く諸問題に限定されていることも指摘しておきたい。

すなわち、一九三七年十二月を挟んだ前後の南京市における人口推移であるとか、また慈善団体の埋葬活動に関する記述などに代表されよう。私見になるが、大部の著作であるために、該当部分だけを筆写乃至複写して用いられることが多かったのであろうか。

但しこの本は、当然のことながら「虐殺」の有無を論じるために編集された史料ではなく、むしろ戦前期国民政府の首都としての歴史、日本占領下から対日協力政権支配下における「南京」の、政治・経済・文化・社会等々、大まかな動向を鳥瞰するための素材であるが故、やはり全体の記述の個性を把握した上で利用したい図書である。

幸いなことに、最近では日本・中国・台湾などにおいて、とりわけ戦時期南京を対象とした論文や著書が、数多く発行され、本書以外の史料の所在などについても、わたくしたちは豊かなイメージを持てるようになった。そうした意味においても、史料の限界性を前提としながらも、『南京』はより積極的に利用されて行くべき図書である。

なお、編者の市来義道（一九〇一～一九九一）は、一九〇一年に鹿児島県において出生。慶應義塾大学経済学部を卒業後、新聞記者などを勤める。彼の出自は、文禄慶長の役の際、島津氏が朝鮮半島から連れてきた陶工の後裔であるという。南京日本商工会議所には、一九三九年十二月から書記長として勤務しており、後に上海での仕事を経て帰国した。

従来論者によれば、敗戦後、市来は「姜魏堂^{カンウエイトウ}」のペンネームを用いて文筆活動を進め、朝鮮総連で活発に活動、在日朝鮮文化人会を拠点にした生きざまが語られている。生まれる時代と場所をわたくしたちは選択することができない。この『南京』にはいったい彼のどのような思いが結実しているのだろうか。

何れにせよ、今次の復刊により、多くの研究者がこの史料を活用されることを期待している。

（財団法人東洋文庫研究員・立命館大学教授）

◆本書の特色◆

- ◎70年過ぎてなお議論が続く、「南京事件」をとりまく基礎文献の復刻。
- ◎日中戦争前夜から戦時期南京の基礎データ満載。
- ◎叙述の特徴として「(日華)事変前」「事変後」に分け、「事変後(昭和15～16年当時)」についても、細かい記述がなされている。
- ◎断片的にしか知られていない日本占領時代の諸相が統計なども盛り込まれ、「南京」の全容が具体的にイメージ出来るように説明されている。
- ◎当時の南京における日本人の経済活動の詳細が分かる。特に巻末収録の「業種別会員名簿」は個人営業者を含むものでそれらの動向を追うための貴重な資料。
- ◎南京市街図など具体的な図版が豊富。

各地方自治區ハ登記用紙ヲ市民等ニ分配スル事ヲ命ゼラレタ。第二回ニハ登記シタ者等ノ姓名ヲ發表シ彼等ニ宣誓内容ノ寫シヲ送ツタ。第三回ニハ登記シタ者達ノ宣誓式ガ行ハレ第四回ニハ宣誓式ニ參加シタ者ニ宣誓證書ヲ送ツタ。毎年一回行ハレル事ニナツテキタ。

一、皇軍南京入城以後ニ於ケル市行政ノ概況

民國二十六年十二月十三日皇軍南京入城――

北支ノ一角ニ端ヲ發シタ事變ノ進展ハ遂ニ江南ノ戦局ニ擴大シ、國民政府抗日ノ氣勢ハイヨク、強烈ノ度ヲ加へ、

二二四

第二章 市政

第一節 行政

第一項 事變前

民國十六年四月國民政府南京に奠都し同月二十四日市政廳を舊貢院に置き劉紀文を市長として革命軍總司令部から三千元支出して創設費とし、同年六月一日正式に南京市政府を設立、秘書處・財政局・工務局・公安局・教育局・衛生局の六局を設けた。ついで六月六日南京特別市暫行條例を發布して南京特別市を國民政府の直轄とし、七月二十日には土地局を増設した。

同年八月劉市長辭任し、何民魂を後任とし、經費節約の爲め土地局を財政局の中に含めて土地課とし、衛生局を公安局の中に入れて衛生課とし、十七年一月社會調査處を設け、四月には土地局を復活した。七月八日國民政府は特別市組織法を發布した。

間もなく再び劉紀文市長となり、組織も従來の秘書處・財政局・土地局・工務局・公安局・教育局の外に社會・衛生の兩局を増設した。十八年三月には首都警察の重要性に鑑み公安局は内政部直轄とされた。其後魏道明・馬超俊・谷正倫等相次いで市長となつたが、行政組織は殆んど變更せず只民國十九年七月國民政府は新制定の市組織法によつて、南京特別市を南京市と改稱し行政院に直屬せしめたのである。

民國二十一年四月石瑛は前上海事變直後の市長として立ち、金融枯渇、財政缺乏の折柄行政費節約を計る見地より、教育局を社會局に、土地局を財政局に夫々合併し、衛生局を廢して衛生行政は市政府直接之を處理し、衛生事務は衛生事務所に於て取扱つた。

誠忠 灣北 尙反 其 了シ

- (上) 『南京』
- (右) 『南京市政概況』

◆別冊収録◆

南京特務機關編『南京市政概況』

二二四

『南京市政概況』（全一九八頁。他に図・表あり）は、その「序」に「今次事變ノ前後二巨リ南京市政ノ歴史的経緯ヲ中心トシテ首都南京ノ全貌ヲ明ラカニスル目的ヲ以テ当機関員ニ命ジ」編纂したものであることが、昭和十七年（一九四二）七月三日の日付（表紙には同年三月とあり）で、南京特務機關長原田久男の名義で掲げられている。内容は「第一章 南京史地ノ概略」「第二章 南京市行政組織ノ沿革」「第三章 南京ノ名勝古蹟」「第四章 市実業概況」「第五章 市財政概況」「第六章 市教育概況」「第七章 市建設概況」「第八章 市交通概況」「第九章 市地政概況」「第十章 市衛生概況」「第十一章 南京ニ於ケル宗教及ビ社会事業概況」に分かれており、コンパクトながら多角的に日本占領下の南京について語られる貴重資料である。特に第二章では日本占領当時の南京の行政組織「南京自治委員会」・「督辦南京市公署」やその後を受けた「維新政府」時代、「國民政府」時代の南京市政概要が、図表で把握しやすいように整理されている。第四章以降の各分野の概況においては、統計なども比較的多く掲げ、その実相を具体的に説明することに努める。「事變前」「事變後」に分けた記述スタイルは、南京日本商工会議所編『南京』と共通するところがあり、簡潔な内容であるが、同書と対照することによって、日本占領期の南京の様子が浮き彫りとなる。南京日本商工会議所編『南京』と併せて復刻するには、極めて適切な資料である。

南京 全1巻+別冊

[監修] 金丸裕一 [解説] 金丸裕一／アスキュー・デイビッド

A5判上製／函入

●揃定価：本体45,150円(本体43,000円・分売不可) ISBN978-4-8433-2757-9 C3021

2008年5月刊行

関連企画のご案内

抗日・排日関係史料 日中関係史資料叢書 1

—上海商工会議所「金曜会パンフレット」—

全11巻・別巻1 ●揃定価205,590円(本体195,800円)

[監修] 金丸裕一 上海日本商工会議所が中心となって結成された経済団体「金曜会」が発行した『金曜会パンフレット』を全号復刻。昭和4年～同14年の「排日」活動の実態や日中間の情報戦を知る貴重文献。

中国紳士録 日中関係史資料叢書 2

全2巻●揃定価50,400円(本体48,000円)

[監修] 金丸裕一 「満洲」を除く「北中南支官民各層に及ぶ貴重データ・ベース。満蒙資料協会(東京)編纂、1942年7月刊行『中国紳士録(第2版)』。初版は『満洲紳士録(第3版)』の付録であったため、ごく限られた内容であったが、この第2版では13,300人余を収録。詳細索引付き。

中國年鑑・大陸年鑑 日中関係史資料叢書 3

[監修] 金丸裕一 全13巻●各定価24,150円(本体23,000円)

- 第1回・全7巻揃定価169,050円(本体161,000円)
- 第2回・全6巻揃定価144,900円(本体138,000円)

上海で1931年(民国20年版)～1944年(昭和20年版)まで刊行された年鑑。中国の政治・経済・軍事・外交・文化等、多方面に及ぶ連続的なデータを収録。

大陸会社便覧 日中関係史資料叢書 5

全3巻●揃定価25,200円(本体24,000円) 2009年刊行予定

[監修] 金丸裕一 『会社四季報』(東洋経済新報社刊)の中国版(昭和16～18年版)、東洋経済新報社京城支局刊。資本金100万円以上の企業を網羅、昭和17年版では940社を収録。本社所在地、設立年月日、事業内容、資本金、株式・株主数、役員、大株主、業績等を記載。有用な索引付き。

中支那経済年報 日中関係史資料叢書 6

全6巻●揃定価126,600円(本体120,000円) 近刊

[監修] 金丸裕一 中支那経済年報刊行会編『中支那経済年報』を復刻。現地で編集・出版の年報。1942(昭和17)年以降の、激変する中支那の政治・経済界の動向を3ヶ月毎に徹底分析した。現在その存在が確認されている1942年～1944(昭和19)年すべてを収録。

朝日新聞外地版 [監修] 坂本悠一

- 第1回(1935～1936) 全4巻 好評発売中
 - 第2回(1937) 全4巻 好評発売中
 - 第3回(1938) 全6巻 2008年5月刊行予定
- 全65巻+別巻1 ●最多価格：各36,750円(本体35,000円)

『朝日新聞』の九州支社・西部本社で印刷され、現在西部本社に所蔵されている外地の地方版を年別、版建てごとに集成復刻する。対象地域は朝鮮、台湾、満洲、そして中国であり、期間は1935(昭和10年)12月1日から、1945(昭和20)年3月末日までである。日本の東アジア進出に伴い、新聞社も台湾、朝鮮、満洲、そして中国で販売網を広げ、各地に支局を設けるなど進出していった。第1回は、1935(昭和10年)12月1日から、1936(昭和11)年12月までの分であり、内容は「朝鮮版」「朝鮮西北版」「台湾版」「満洲版」である。なお、版建ては以降、分割されたまま統合されてゆく。本書によって、1930年代半ばから敗戦までの10年間に、日本の新聞が地方版という形で、東アジア各地の動向をどう報道したか、あるいは各地の統治政策とどう関係していったか、など興味深い問題が提示され、また、個々の記事はもとより地域毎に異なる様々な広告などが通覧できるようになり、さまざまな研究の史料として活用されることが予想される。戦前・戦中期の日本史、台湾史、朝鮮史、満洲史、中国史、また新聞史、メディア史などの研究に資する史料である。

藝文 第1期(藝文社版)全22巻(予定) [監修] 呂元明/鈴木貞美/劉建輝

- 第1回・全6巻揃定価84,000円(本体80,000円) 好評発売中
- 第2回・全6巻揃定価78,750円(本体75,000円) 好評発売中

1942(昭和17)年に創刊され、1945年5月までに全42号が発行された。満洲における、初にして唯一の日本語総合文化雑誌。「成熟」の時期に入った満洲文化を伝える貴重な雑誌資料である。目次を一瞥しても、当時満洲において活動していた、知識人、文化人、行政の側から、民間に至るまで、およそ考えられるすべての方面での事項が扱われている。文学を例にとりて言えば、それまで民族ごとに分かれ、様々なグループによる活動が行われていたが、政治的統制など個別の活動が困難になっていく状況の中、それらの作家達は、なかば要請された形だが、「藝文」という志のもとに、大同団結し、一つのまとまりを成しつつあった。文学だけでなく、すべての文化がそういった局面を迎えていたのである。そのような「建国十年の節目」と誰もが認識するなか、「満洲文化」を統べるべく登場した「待望」の雑誌こそが、『藝文』であった。日中両国で残存が少なく、長く「幻」とされてきたが今回の復刻によって、いよいよその全貌が明らかになる。今後、日本、中国近代文化史を語る上で、欠くことのできな資料。



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方● 大学図書館、日本近代史・中国史・アジア史・植民地史・外交史の研究者、関係研究機関など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	南京 全1巻+別冊 (分売不可)		取扱店
	揃定価45,150円(本体43,000円) ISBN978-4-8433-2757-9 C3021		
お名前			
住所	TEL ()		08.03/01.7000.H